

竹工芸を知り、竹工芸をよりおもしろく!! —市制施行70周年記念 第27回全国竹芸展開催—

問 全国竹芸展実行委員会事務局(文化振興課) 本4階 TEL 0287-23-3129

全国竹芸展の開催趣旨

竹林に恵まれた那須地方、特に大田原市は、栃木県文化功労者の故八木澤啓造氏や国指定無形文化財保持者(人間国宝)の故 勝城 蒼鳳 氏、藤沼 昇 氏(いずれも大田原市名誉市民)を始めとする著名な作家が多く、また、多くの竹芸愛好家が活発な創作活動を展開しており、全国的にも竹工芸の盛んな地域です。

この作品展を通して竹工芸関係者の交流を図るとともに、先人たちの竹工芸の技術と心を後世に伝え、さらなる発展に寄与することを目指しています。

竹工芸とは

竹は手軽に手に入る材料でありながら、優れた柔軟性、強靭さを持ち、通気性や抗菌性に長けるといった特徴があります。この特徴を生かし、古くは縄文時代から生活の道具が作られ、現在では茶道や華道、インテリアなどに利用されています。

竹工芸は、材料となる「竹ひご」を作るところから始まります。竹は繊維が細かく、いくらかでも細く割ることができますが、大変難しい作業になります。「板割り」や「^{まさわ} 杙割り」といった方法で竹ひごを作り、それを編んで作る「編物」や、編んだものを組み合わせる「組物」といった種類があります。

基本的な編み方

四つ目編み



六つ目編み



網代編み



ござ目編み



応用した編み方

差し四つ目編み



差し四つ目編み



差し六つ目編み



花差し四つ目編み



制作に使う道具と用途

なた鉋



竹を割る

切り出しナイフ



面取りや竹ひごの整形

ノコギリ



竹を切る

ハサミ



竹ひごを切る

幅決め



竹ひごの幅を揃える

厚さ決め



竹ひごの厚さを揃える

はんだごて



熱で竹を曲げる

ヒートガン



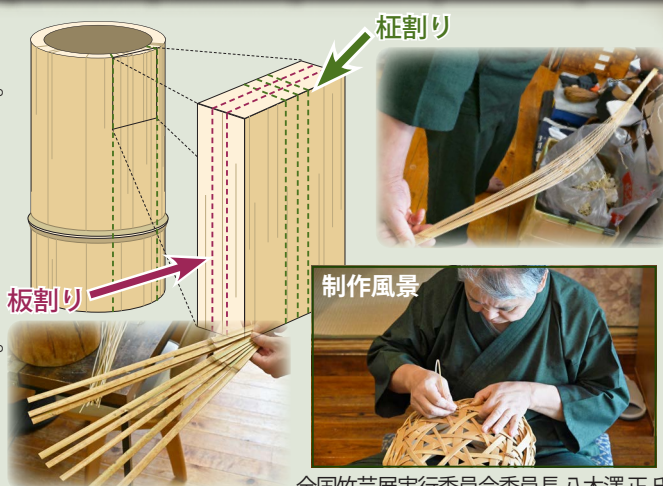
熱で竹を曲げる

制作工程

はじめに材料となる「竹ひご」から作り始めます。磨き包丁で竹の表面の皮をはがします。竹を外側から割っていく「**板割り**」や、竹の中心に向かって割っていく「**柁割り**」といった方法で竹を割り、「幅決め」、「厚さ決め」を行い、目的のひごの形状にしていきます。最後に面取りをして完了です。

編みについては底から編み始め、立体的に編み上げるための腰立ち編みをし、胴編みに入ります。カゴの形のよっては首編みを行い、最後に縁を仕上げます。

完成までの期間は作品の大きさや色付けの有無で変わりますが、おおむね1か月ほどかかります。



制作風景 全国竹芸展実行委員会委員長 八木澤正氏

第27回全国竹芸展

【展示会】(応募のあった全作品を展示)

●日時 11月2日④～4日⑥ 9:30～16:00

●場所 那須与一伝承館 多目的ホール

【表彰式】

●日時 11月4日⑥ 15:00開始

●場所 那須与一伝承館 多目的ホール

【宇都宮巡回展】(応募作品の一部を抜粋して展示)

●日時 11月14日⑥～17日⑥ 9:30～16:00

(14日⑥のみ13:00開場)

●場所 栃木県総合文化センター 第1ギャラリー

【入賞作品展】(入賞作品のみ展示)

●日時 11月20日⑥～令和7年1月9日⑥ 9:00～17:00

●場所 那須与一伝承館 竹のギャラリー

皆さまのご来場お待ちしております。



第26回全国竹芸展最優秀賞受賞作品
『千集編盛籃「風のあしあとII」』
印南 克己(栃木県那須塩原市)